
コイビト

天ヶ森雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コイビト

【Nコード】

N3301P

【作者名】

天ヶ森雀

【あらすじ】

「少女」という言葉の響きに理想をのっけてみました。

「少女」という存在が大好きです。

恋人視点ならこんな感じかなあ、とか。

(前書き)

『少女』という言葉の響きは、常に自分以外の幻想に向けられている、と思う。

少女と言う名の生き物はいない
笑いながら、君は言う

君が言うならそうなのだろう

細い肩

細い指

柔らかい頬

柔らかい唇

君を構成する細胞のすべて

それは少女という生き物ではなく

少女と言う名の生き物はいない
怒りながら君は言う

例えば春の桜の下で

散る花びらにうずもれながら

空を仰いで眩しそうに

微笑む君が輝いて見えて

例えば夏の海の向こう

陽に焼けた膝を晒しながら

水飛沫を飛ばし、揺らし

乱反射する可視光線

例えば秋の夕暮れ時は

失くしたものを惜しみながら
それでも毅然とこうべを上げて
唇嚙んで泣くのを堪え

例えば冬風吹きすさぶ日に
凍えた僕の指先をとり
無邪気に吐息で暖めてみたり

少女と言う生き物はいない
無表情に君は眩き
もろく儚く傲慢なまま
傷つく事に怯えながら
傷つく事を恐れぬ振りで

少女と言う生き物はいない
君が言うならきつとそう
そんな生き物いるはずもない

そこにはいるのはたったひとつ
君と言う名の君がいるだけ

(後書き)

「少女」である自分を否定する自意識の高さも、少女特有のもの、
かもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3301p/>

コイビト

2010年12月10日17時11分発行